平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） 4 ※記入不要	提案機関名	農業振興課

要望問題
県民参画型水田保全管理システムの構築

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）】

本県の水田面積は約 5,000ha、水稲作付け面積は約 3,300ha あり、単一作物としては最も大きい面積を占めている重要な生産並びに経営基盤であると共に、自然・社会等の環境や教育・文化に大きく寄与している。しかし、水田の担い手の高齢化や急激な生産環境悪化等の影響から、遊休農地の増加傾向が続いている。一方、県民の多くは、水田が持つ多面的機能を高く評価する意識の高まりに伴い、現在は一部ではあるが、水稲栽培体験等具体的な取組や環境付加等による経済的支援運動が高まる傾向にある。

こうした状況並びに次の視点を踏まえ、広く県民が企画から参画する、水田を優良な状態で保全し、しかも地権者にも経営的に見合った新たなシステムの構築をお願いする。

○県内の水田オーナー制、異業種交流、ボランティア等の取組事例整理
○事例調査結果や新たな創造による、都市農業における水田保全管理システムの構築
○新たなシステムにおける経済性評価試算
○新たなシステム普及における行政や普及の取組手法や役割分担の整理

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：経営情報部	
対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名	（①、②、④の場合）

対応の内容等

水田については農業の多面的な機能の中で、最も県民一般に理解の得られやすい分野であります。しかし、水田を維持していくには、労力がかかり県民参加の活動も視野に入れた、行政課題であると考えます。

現在、地産地消の取り組み事例の実態調査を行っております。上記についてもこの範囲内に取り込むことで調査については対応できると思われますが、県内全体を網羅した取り組み事例の整理は研究所のみでは不可能です。

今後、関係機関と連携して実態調査を実施する中で、水田保全管理システムの課題化が可能か検討を行います。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	